

津國

行方郡内

宮木崎津

島崎津

尾宇津

江崎津

信方津シノカタ

橋門津

西蓮寺船津

鎌谷津

高須津

鳴田津

水原津

船子津

山田津

平濱津

土古津

逢賀津

〔令義解職一員攝津職帶津國

〔令義解關九市凡行人出入關津者中略津者攝津

〔令義解軍防五凡防人向防各賣私糧自津發日隨給公糧

〔日本書紀應神十四十二年二月是月阿知使主等自吳至筑紫中略既而率其三婦女織弟媛吳織以至津

國及于武庫

〔倭訓栞前編十六都津濟のつは人のあつまるよりいひ中略の國も西州の船舶輻湊の地

なるをもて名くるなり

〔州名紀原攝津中略津湊津也言此國難波堀江天下著船津也中略予曰攝津不讀攝字而曰津國

古實也圖書編異朝之書作津州

〔諸國名義考上攝津

和名抄に訓法なしたゞ津とのみよむべきか名義は即津なり

〔釋日本紀六述義伊豫國風土記曰宇知郡御島坐神御名大山積神一名和多志大神也是神者所顯難

波高津宮御宇天皇御世此神自百濟國度來坐而津國御島坐云々謂御島者津國御島名也